

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームともだちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年目に入り、利用者の重度化が否めず、対応を難しく感じることもある。しかしながら、あせらずに奇をてらわずに、できることにコツコツ取り組む姿勢を忘れずに、誠実な運営をするべく、日々実践している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年11月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後10年が経過して、地域との連携も取れ様々な協力が得られている。地域役員との交流や町内行事への参加、市主催である「生き生き100歳体操」へのリビング提供で、体操サポーターと利用者、地域の方との交流の場面も週1回実施されている。ボランティアの方が訪問し、季節に合わせた絵画や句の作品がホーム内に展示され、利用者や訪問者の目を楽しませてくれている。短大生の実習やヘルパー2級講座の受け入れも、地域への貢献にも一役担っている。利用者の家族が訪問時にエレクtoonや三味線の演奏をしてくれることもあり、利用者と一緒に歌ったり聴く楽しみの機会もある。また、利用者職員との関わりも、理念の実践につなげ、「本人が少しでも何か出来るように」「相手を思いやる気持ちを大切に」「落ち込んでいる方には温かい気持ちで声かけする」対応を行っている。職員のスキルアップについてのバックアップも整い、働く意欲につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(ユニットIアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎日唱和して、実践につなげるように努めている。	理念は5年前に改正され、センター方式のガイドブックを参考に、5つの視点を柱に管理者と職員が一緒に作成している。職員は利用者の生活の中で、少しでもできる事を見守る、無理な事はしない、相手を思いやる気持ちで声かけする等のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の皆さんと交流を図っている。	開設から10年が過ぎ、地域役員との交流や町内行事へ参加もできている。ボランティアの方が訪問し、季節に合わせた絵画や句の作品がホーム内に展示され、利用者や訪問者の目を楽しませてくれている。学生の実習やヘルパー講座の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板で、ホームの日頃の様子を伝え、理解を深めるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回様々なテーマについて、ご意見をうかがい、貴重なアドバイスとして活かしている。	運営推進会議は定例開催され、利用者・家族・包括職員・民生委員・消防職員・認知症家族の会等の参加がありサービスの質向上に活かしている。会議の前段ではホーム行事と一緒に参加したり、避難訓練では避難場所で利用者を見守って頂く協力もお願いしている。	題材を工夫する事で地域の方がグループホームに何を感じているのか、又ホームとして地域に何が出来ると期待される。また、会議録の記載方法の検討、作成した記録を出席していない家族の方への配布も望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	窓口担当者と必要なやりとりを行ない、協力関係を築くようにしている。また2ヶ月に1回の頻度で、市主催で市内のケアマネジャーの会議があり情報交換に努めている。	隔月で開催される地域ケア会議に出席し、行政や福祉関係者と情報交換を行っている。各部会の集まりや、ケアマネジャーの会議もあり情報収集や交流を深める機会ともなっている。行政には直接出掛け、問い合わせや相談も都度行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしていない。身体拘束についても理解に努めている。	職員には独自に作成した「身体拘束に関して」を説明し、内・外研修も適宜行い、正しい理解の下でケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠・ベット周りの拘束もなく車いすからの適宜移乗も行っている。止むなくセンサーを使用している方は、家族と相談し了解の下、転倒予防として検証にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加するなど、虐待が見過ごされることの内容に留意している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用者の中に対象者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時のみならず、契約前には事前に書面一式を渡し、目を通していただき、質問に全て答え納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話や、家族の面会の際には必ず職員から声をかけている。すぐに取り組める内容の気づきがあれば、即実践している。	家族の来訪時には、気兼ねなく話ができるような雰囲気づくりに努め、要望に応えている。家族に発行されるホーム通信には、写真や受診状況が記載され、日常の様子も伝えられている。家族会からは、利用者の誕生日にお祝いが送られている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1～2ヶ月に1度のスタッフ会議のほか、随時聞くようにしている。 代表者は常駐していないが、希望があれば日時を決めて、意見を聞いている。	勤務の関係から、全員参加の会議ではなく数回のミーティングに分けられ、管理者を中心に職員から意見や提案を聴ける仕組みとしている。日常で気付いた時は、その都度話し合いケアに反映できるように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状態の中で出来る範囲で、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に出かけて研鑽を積むようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内のグループホーム同士で、お互いに見学会を行ない、自分たちのサービスを確認する機会となっている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会い話を伺うが、判然としない時には、家族や担当ケアマネジャーと話しあい、本人の暮らしぶりを伺っている。食事の注意点や、洗濯物の仕分けなどの具体的な面で、自宅の生活に近い状態を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実際に面談したり、電話で話したり、不安の解消に努めている。可能な範囲で要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望があったが、健康診断の結果、医療面での対応がより必要とわかり、入居見合わせとしたケースがあった。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付けやテーブル拭きなどをしたり、一緒に活動している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が対応しても混乱が強い時には、家族に電話や面会で対応していただき、協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭で使用していた用品の持込をするようにしている。 馴染みの人のそれぞれの生活もあり、来るのが難しいこともある。手紙や電話での会話を楽しみにしているかたもいる。	使い慣れた物の使用や、家具・仏壇の持ち込み、飾り付け、趣味の編み物や得意の繕い等、変わらない生活の継続に心がけている。家族と通院や墓参り、買物と一緒にいけるように働きかけ、利用前の生活環境や馴染みの関係を大切に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの時間も大切に、孤立せずに会話の橋渡しをすることもある。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	断ち切ろうとは考えていないが、次の居場所によっては難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。難しい場合には、本人本位の視点でアセスメントをしている。	入居時はホーム独自のシートを活用し、情報収集している。その後は、面会時に家族からの情報や職員の気づきを大切に扱い利用者の思いに応えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業所からの情報や、事前面談を通して把握し、入居後の会話の中でも理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の時間の流れの中で、様子を確かめ記録をしながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人にケアプラン原案を見せ意見を聞きながら、介護計画を作成している。	基本的に4か月毎のモニタリング・評価となっている。カンファレンスの前には職員が私の姿シートに気付いた事を記載し、計画作成に反映している。毎日の記録は、課題や目標が印字された用紙が活用され、常にケアプランが意識できるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけニーズに応えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の安全を第一に考え、必要に応じて地域資源を確認しながら活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に継続して通院している。	入居前のかかりつけ医を継続し、家族や職員の同行により受診支援が行われている。医療連携体制による看護師の訪問で、定期的な健康観察が続けられている。職員が同行した時の報告も、特変がなければ通信で行っている。	

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をして、定期的な訪問や24時間の電話相談を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書をすみやかに提出し、情報提供をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら、ホームで出来ることはスタッフが支えている。本人の健康の維持を第一に考え、経口からの栄養摂取が難しくなった場合に、点滴に通ったり主治医と相談しながら、次の居場所探しをしている。	重度化や終末期に向けた指針・方針を作成し、入居時に同意が得られている。指針にはグループホームとして対応できるケアについて明示されている。ターミナルケアについて現在は、体制整備と研修の充実を目指し検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも参加していただき、避難訓練を行っている。	スプリンクラー・緊急通報システムの設置、日中・夜間想定避難訓練を継続している。地域の協力も得られ、一緒に参加する事で避難の重要性を確認している。災害についての検討もハザードマップの活用で検討し、備蓄や各種講習も続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけなど、言葉を選んで対応している。	人格の尊重やプライバシー保護について管理者から話をする事で確認し、気になる事があれば言葉を選んだり、自身で見本を示す事で対応している。書類の名前も略語で掲示し、本人と分からない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの段取りの都合だけではなく、利用者の皆さんの体調などに合わせて、柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の思いを大切に、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装をすすめたり、清潔さを保てるように支援している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は難しいが、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しくとして頂ける様に心がけている。下膳や食器ふきなど声かけをしながら一緒にしている。	メニューは管理者が作成し、利用者の嗜好を取り入れ、食事形態に配慮した内容となっている。職員と一緒に、季節を感じながら食事を楽しみ、後片付けの手伝いには利用者も関わり、力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の摂取量を考えた盛付をしたり、食べ易い様にきざんだり、水分にトロミをつけるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後声かけと見守りにておこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のリズムに合わせて、声かけや誘導を行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導をしている。トイレ排泄を基本に、夜間も利用者の習慣に合わせた対応をしている。退院後の身体状況低下改善の取り組みも、積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトをすすめたり、運動や腹部のマッサージを行うなど、個々に応じた予防を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの時間に声かけし、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	入浴環境を毎日整え、週2回は入浴できるように支援している。少人数でゆっくりと入浴でき、天候や身体状況に合わせた対応も適宜行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのかたに応じて、布団を敷いたりベッドで休んだりなど、生活習慣に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表をつけたり、バイタル表を確認しながら、状況の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の片付けに取り組んだり、毎日体操をして楽しんでいる。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内の運動会や盆踊りなどの行事に参加している。 長距離を歩けないかたも多いが、ホームの玄関先に出て気分転換することもある。	一人ひとりの体調に合わせて、近隣の散策やホーム前のベンチで寛ぐ場面を作っている。利用者の高齢化や筋力の低下も進み、年々外出が難しくなっている現状がある。ドライブで花見等に出かけているが、ホーム内のイベントを多く持ち、体力低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名を除き、管理が出来ない為、事務室で預かっている。買い物は希望に応じて行けるかたは一緒に行ったり、好みを聞いて買い物の代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、設置している公衆電話からの通話の手助けをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにライトを置いて明るさを調節したり、各所に手すりをつけている。	玄関、リビング、ホール、トイレ、浴室、そして居室どこも広く、ゆったりと明るくゆとりのある空間となっている。ボランティアの方の季節に合わせた作品がバランス良く飾られ、通路は目を癒してくれる部分である。掃除も行き届き清潔感があり、気になる匂いもなく利用者が心地よく生活できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを置き、皆でくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持参していただき使用している。仏壇を持ってこられて手を合わせたり花を供えたりもしている。	居室は、大収納のクローゼットに暖房器具、カーテンが設置され、使い慣れた家具やベット、仏壇が配置されている。家族の写真や作品で装飾を施し、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。知人や家族が訪問した時、一緒に語り合う大切な住まいとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室で安全に過ごせるように、家具の配置を工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームともだちの家		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニットⅠ」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年11月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ユニットⅡアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎日唱和して、実践につなげるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の皆さんと交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板で、ホームの日頃の様子を伝え、理解を深めるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回様々なテーマについて、ご意見をうかがい、貴重なアドバイスとして活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	窓口担当者と必要なやりとりを行ない、協力関係を築くようにしている。また2ヶ月に1回の頻度で、市主催で市内のケアマネジャーの会議があり情報交換に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしていない。 身体拘束についても理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加するなど、虐待が見過ごされることの内容に留意している。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用者の中に対象者がいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時のみならず、契約前には事前に書面一式を渡し、目を通していただき、質問に全て答え納得を図っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話や、家族の面会の際には必ず職員から声をかけている。すぐに取り組める内容の気づきがあれば、即実践している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1～2ヶ月に1度のスタッフ会議のほか、随時聞くようにしている。 代表者は常駐していないが、希望があれば日時を決めて、意見を聞いている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状態の中で出来る範囲で、環境や条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に出かけて研鑽を積むようにすすめている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内のグループホーム同士で、お互いに見学会を行ない、自分たちのサービスを確認する機会となっている。			

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、本人の希望や要望を聞き、できる限りそれに沿っていけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも希望や要望を聞いて、より良い関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新たに入居されたかたはいるが、グループホーム入居で支援が出来そうだった為、そのまま入居していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝、共有スペースの掃除を一緒におこない、協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、挨拶のみならず、近況を伝えて、家族の要望希望を聞いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族と一緒に通い入れた美容室に行くなど、でこることは継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に体操したり、歌番組を見て一緒に歌ったり、会話を交わしたり、体調不良の時には心配したりなど、仲間関係を築いている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなか、契約終了後にフォロー・相談という機会がないが、会うことがあれば声をかけ挨拶をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの意向や希望に沿うように努めている。例として、朝食時刻や内容を個別にを本人に合わせる場合もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に事前の面談で把握したり、居宅介護支援事業所ケアマネジャーに確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、ひとりひとりの表情・行動を見て、その日の現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合いを行ない、家族や本人の希望を取り入れ介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、いつでもスタッフが見られるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、必要な場合には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事に参加するなど、地域交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に受診している。受診時には、受診ノートを利用し、密接な関係を築くようにしている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師に来ていただき、様子の確認をしている。必要な時にはその都度電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、介護添書をすみやかに提出している。入院時もスタッフが顔を出し、こまめに様子を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族と相談しながら出来る範囲で対応している。食事の工夫や体調不良時のすみやかな受診など。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習に参加し、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域のかたも参加し、避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋間違いなどを指摘せずに、他の用事をさりげなく頼んでプライドを傷つけないようにするなど、配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活リズムに合わせて、食事・風呂・足浴など柔軟に対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿っている部分もあれば、重度化に伴って難しくなっている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の服選びや髪の設定など、本人の希望を聞きながら行っている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は行っていたが、重度化にともない出来なくなってきたり、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の発症により、控えている状況もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ同士で情報交換をしながら、手を変え品を変え、食事や水分を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に、誘導や声かけや介助を行ない、必ずスタッフが確認しながら行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄のリズムを、チェック表を用いてスタッフ同士で確認しあっている。そのリズムに沿って誘導や声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操やいきいき百歳体操をしたり、掃除をして体を動かし、運動に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の気が向くタイミングに時間を合わせて、準備をするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ひとりひとりのペースで、自室や居間のソファで休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容シートを確認しながら、疑問があれば薬局や担当医に問い合わせをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりの出来ることに取り組んでいたが、達成感や満足感を得て笑顔になるように努めている。		

グループホームともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化にともない、通院以外の外出が難しくなってきたかたもいる。家族に協力を仰ぎ、個々に外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方がおらず、事務室で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くかたはいないが、電話は希望があれば手助けをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、わかりやすいようにしている。また、ボランティアの協力を得て、童謡の歌詞をイラストつきで貼りだしてもらい、眺めて楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、ベンチを置いて、自由に使っていただいで過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、写真や花を飾って、好みに合うように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室入り口にのれんや名札を置いて、見分けられるようにしたり、整理整頓を心がけ安全に暮らしていただけるように気をつけている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームともだちの家

作成日：平成 24年 11月 30日

市町村受理日：平成 24年 12月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議メンバーからの「話し合い」よりも「一緒に活動する」ことをしたいという希望もあり、参加型の内容に偏っている。題材の工夫を行ない、意見交換の場として活性化する必要がある。 あわせて、会議録の充実や家族への配布も必要である。	参加型と意見交換の場の両立を目指して、題材の選び方の検討をしていく。 会議録の記載方法を充実させるべく、出されたコメントを1つずつ丁寧に集めていく。	他施設の管理者と情報交換を行ない、運営推進会議の内容についてアドバイスをいただく。	24年 11月末迄
2		同上	同上	次回、運営推進会議の議題として、外部評価の結果報告と共に、今後の内容について意見交換を行なう。	25年 1月予定
3		同上	同上	25年1月予定の運営推進会議より、議事録をより詳細に記載することとする。 家族には、便りで内容を知らせるだけでなく、議事録そのものを送る。	25年 2月予定
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。